

障害者福祉団体リーダー養成研修

公益社団法人 東京都身体障害者団体連合会

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ5階

助成事業の概要

1 障害者福祉団体リーダー養成研修の目的

障害者福祉団体は長い歴史の中で、障害者の権利向上を目指して、国、都、区市町村に働きかけてきた。その結果、障害者福祉を巡る各種法制度等は格段に整備されてきている。

だが一方で、障害者団体は会員の高齢化とその減少、人材・後継者不足という共通の課題を抱えている。障害者福祉団体の今後を展望したとき、各団体の一層の連携と広い視野を持ったリーダーを養成することが喫緊の課題となっている。障害者福祉団体はそれぞれ個別の沿革と課題等があり、団体の課題はそれぞれの団体が解決することが肝要であるが、都内11団体及び東京都で構成する東京都障害者社会参加推進協議会で各団体の支援の一助になればとの考えのもとで、リーダー養成研修を行うこととした。

2 リーダー養成研修の実施時期

平成30年2月2日（金）

3 実施内容

障害者団体の今後を担う者を研修受講者とし、そのほか団体等の推薦があれば積極的に受け入れることとした。リーダー養成研修は初回でもあり、まず、障害者施策の大きな流れ、その制度改革の経緯を知り、各障害者団体はその流れの中の奈辺に位置づけされるかを認識してもらうことに重点を置いた。

日本身体障害者団体連合会前常務理事、現相談

役で、東京都身体障害者団体連合会顧問の森祐司氏に講師をお願いし、「障害者制度改革の経緯を知ろう」のテーマで講演していただいた。

講演の内容は、戦後ヘレンケラーの来日から障害者施策がスタートしたことから、その後の障害者制度の主な歩みを概観し、措置制度から支援費制度へ、そして障害者総合支援法へ、最後に障害者権利条約批准に至るまでの経緯についての内容であった。受講者は各所属の障害者団体の成立や活動の状況を思い浮かべながら熱心に受講していた。

事業の成果

各障害者福祉団体にとって、それぞれ固有の課題を抱えながら、今回の研修受講をもとに、所属の団体に持ち帰り、今後の方向性を探りたいという意見があった。今まで障害者団体として日常活動に従事していたが、障害者制度の歴史を知り有意義であったことがうかがえる。歴史を知ることでは過去の事実の知識の分量でなく、未来に活かすことであるとのコーディネーターの意見にほとんどの受講者がうなづいていた。

最後に講師から、「重要なのは団体なのです。みなさん個人では障害者の制度施策を進めることは殆ど難しいのではないのでしょうか。もう一度ご自分の団体の存在意義を見出して障害者施策を進めてください」との励ましがあった。

■ 成果の広報・公表

東京都身体障害者団体連合会の機関紙「都身連」本年2月号に「障害者福祉団体リーダー養成研修」の実施内容を掲載し、連合会各支部及び賛助会員に配付した。また、2月14日に行なわれた東京都障害者社会参加推進協議会で、「障害者福祉団体リーダー養成研修」の実施状況について報告したところである。各委員から今後ともこの研修を続けてほしいとの意見が出された。

本研修の報告、成果としてDVDとCDを作成したので、当会で保管するとともに貸出しの要望等に応えていく。

■ 今後の展開

各障害者団体は会員の減少や後継者・リーダー養成について、それぞれ努力をしているが、新たな会員の増員や人材育成等なかなか次の展開が読めない状況にある。各団体の現状は、十分な効果があがらず、手詰まりの状況にある。東京都障害者社会参加推進協議会での意見があったとおり、障害者福祉団体リーダー養成研修がすべてを解決することはできないまでも、各団体が今後の展開を考える一助になると思うので、各団体の連携を視野に入れながら、引き続きこの研修を継続して行きたい。